

もくじ

新潟県 うえすぎけんしん 上杉謙信 8

富山県 じんぼながもと 神保長職 10

石川県 しょう 証 にょ 如 12

福井県 あさくらよしかげ 朝倉義景 14

山梨県 たけだしんげん 武田信玄 16

長野県 おがさわらながとき 小笠原長時 18

長野県 さなだまさゆき 真田昌幸 20

岐阜県 さいとうどうさん 齋藤道三 22

静岡県 いまがわよしもと 今川義元 24

愛知県 おだのぶなが 織田信長 26

天下人を生みやすい土地? 30

愛知県 とくがわいえやす 徳川家康 32

「天下分け目」の土地 36

せきがはら たたか 関ヶ原の戦い 38



うえ すぎ けん しん 上杉謙信

新潟県  かがやまじょう
春日山城

びしゃもんてん しん ぎ 毘沙門天を信じ、義を重んじる

まさに戦に明け暮れた生涯でした。

お父さんの跡を継いだ実兄の長尾晴景、義兄の長尾政景と対立。兄の養子になって春日山城(上越市)に入り、現在の新潟県のトップに立ったあとは、県外に目を向けました。

関東管領の上杉憲政(山内)を助けて関東に17年間にわたって出兵。一時、小田原城(神奈川県小田原市)を囲むこともありましたが、その憲政が北条氏康に追われて逃げこんでくると、憲政の養子となって関東管領の山内上杉氏を継ぎます。

また武田信玄に追われて長野県北部の村上義清が逃げこんでくると「北信濃」をめぐる、おもなものだけで5回にわたって川中島(長野市)で戦をしました。

この2つの例からもわかるように、助けをもとめられたら立ちあがる、「義」を重んじた武将としても知られています。信玄の死後は、北陸地方から軍を北に進めてくる織田信長が敵となりましたが、脳溢血のため春日山城で亡くなりました。

戦の神様である毘沙門天を信仰し、180センチ近くあったといわれる身体で馬にまたがり、鋭い眼光で指揮する戦ぶりは豪快で天才的でした。生涯独身を通して、じつの子がなかったため、養子となった景勝と景虎(北条氏康の子)のあいだで、謙信の死後、跡継ぎをめぐる争う御館の乱が起きます。

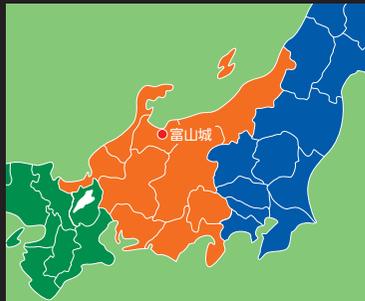
なおえじょう 直江状

謙信の姉の子で、謙信の養子になっていた上杉景勝は、御館の乱で同じく養子の上杉景虎を破って春日山城に住みます。家老の直江兼続のすすめもあって豊臣秀吉の家臣となり、小田原攻め、朝鮮出兵などで功績をあげて会津(福島県会津地方)を領地とします。五大老のひとりとなりますが、秀吉の死後は、徳川家康に抵抗。これが関ヶ原の戦いの引き金のひとつとなります。

家康の命令を受けて上杉家との交渉にあたっていた僧に送られた「直江状」というものがあります。家康から景勝への問いかけに対して、家老の直江兼続がいちいち屁理屈ともいうべき理屈をつけて返答しています。この「直江状」が関ヶ原の戦いの原因になったかのようにいわれてきましたが、現在では、実在説、偽書説、後世書き直し説などがあります。

関ヶ原の戦いのあと、景勝は領地を滅らされ、山形県米沢市に移りました。





じん ぼ なが もと 神保長職

富山県  富山城

じん ぼう ちゆう ぞ 神保町に名を残す神保氏中興の祖

東京都千代田区に、世界最大級の古書店街「神田神保町」があります。

この土地には、江戸時代、神保氏の屋敷があり、その前を神保小路と呼んだことから、神保町となりました。

この神保氏のご先祖さまのひとりが、この神保長職なのです。

室町時代、現在の富山県は、幕府の政治をする三管領のひとつ畠山氏がおさめていました。でも、じっさいには畠山氏はいつも京都にいたので、神通川より東を椎名氏が、神通川より西を神保氏が代わりにおさめていたのです。

両氏は領地を争い、神保長職のとき神通川より東を攻めて、神通川東岸に富山城(富山市)を築いた、とされてきました。ですが、発掘調査で室町時代前期の建物跡が見つかったため、もっと前から城があったことがわかっています。

富山城は、北陸道と飛騨に通じる街道が交差したところに建っていました。その富山城を築いたかどうかはともかく、長職のとき神保氏が富山県に広い領地をもち、「神保氏中興の祖」となったのは、たしかです。

長職は、富山県に攻めこむ上杉謙信と戦って敗れて追放されますが、謙信の死後は織田信長の家臣の佐々成政が富山城に入りました。

さつ さ なり まさ ごと 佐々成政さらさら越え

信長が本能寺(京都市)で亡くなったあと、重臣たちが清洲会議を開きますが、織田家は跡継ぎ争いでもめました。はじめに織田信孝を跡継ぎにしようとした柴田勝家が羽柴(のちの豊臣)秀吉につぶされ、次には織田信雄に協力をもとめられた徳川家康が小牧・長久手(愛知県西部)で秀吉と戦います。

両者が和睦したと耳にした佐々成政は、真冬の北アルプスを越えて静岡県浜松市まで行きます。北アルプスのうち、針ノ木峠(「さらさら峠」。標高2541メートル)は当時、富山県から長野県に塩や魚を運ぶ交通路でした。さらさら越えの途中、成政が軍資金100万両を埋めたという伝説が残されています。

すでに家康に寝返っていた成政は、もういちど戦うよう家康を説得しますが失敗。成政は、とぼとぼ富山県まで帰ることになりました。

成政は秀吉に攻められて降参し、九州攻めに参加。戦後、熊本県をあたえられました。

